

＜2013年 農林水産研究成果10大トピックス TOPIC2＞

農林水産技術会議事務局

＜タイトル＞

森林用ドロップネットと運用方法の開発

－山林における安全かつ効果的なニホンジカ密度低減に期待－

＜当該研究成果のポイント＞

国立公園や観光地、畜舎や人家の周辺など、銃器やくくりわなを使えない場所でのニホンジカ捕獲方法として、小型軽量で扱いやすいドロップネット（網を落として捕獲するわな）を開発した。運搬設置が容易であり、現地の立木を支柱に利用することでコストを削減した。遠隔地からの監視と操作で群れごと捕獲することにより、シカに忌避学習させずに、同じ場所で繰り返しわなを用いることができる。このため、効果的なシカ密度低減を期待できる。

本研究は、農林水産省農業・食品産業科学技術研究推進事業「林業被害軽減のためのニホンジカ個体数管理技術の開発」及び環境省公害防止等試験研究費「ニホンジカが南アルプス国立公園の自然植生に及ぼす影響とその対策に関する研究」により実施された。

＜期待される効果・今後の展開など＞

わな猟免許又は網猟免許の取得者が、有害鳥獣捕獲などの捕獲許可を得て使用する。作業道や土場など車両が通行できる場所に設置すれば、運搬設置、見回り、捕獲個体の搬出などの労力が軽減され、また、十分な高さに設置することで長期間の運用が可能。繰り返しの捕獲でシカ密度低減を図る。

「ドロップネットの製作と運用に関するマニュアル」を平成25年度内に作成予定。

＜研究所名＞

（独）森林総合研究所、京都府農林水産技術センター、
京都府森林保全課、一般社団法人 京都府猟友会南丹支部猟友会

＜担当者名＞

（独）森林総合研究所
関西支所主任研究員 高橋裕史、研究コーディネータ 小泉 透
京都府農林水産技術センター
主任 芝原 淳、副主査 野崎 愛、主任研究員 境 米造
京都府森林保全課
副主査 井上巖夫
一般社団法人 京都府猟友会南丹支部猟友会
会長 西村義一

＜連絡先＞

（独）森林総合研究所 企画部研究企画科 千葉幸弘 TEL：029-829-8113

森林用ドロップネットと運用方法の開発

- 成果**
- ・銃器を使用しなくても、森林内で安全かつ効果的にシカを捕獲できる方法として、森林用ドロップネットを開発。
 - ・国立公園、畜舎や人家の周辺など、銃器やくくりわなが使えない場所で、繰り返し捕獲によるシカ密度低減に期待。

構造と設置



作業道上に設置した森林用ドロップネット。周囲の立木を支柱に利用して、10×10 mの網を蚊帳状に吊った。初期設置作業は4人で半日。車両の通行に支障のない高さに設置すれば、長期の運用が可能。



網だけを落とす仕組みにより、再設置は容易。



全ての資材はライトバン1台で運搬可能。

捕獲



- 1) 数日の餌付けで警戒を解いた後、離れた場所で画像を見ながら、
- 2) **群れごと捕獲**できるよう、タイミングを見計らって網を落下。
- 3) 巾着状に網が絞られてシカは動けなくなる。後の作業も安全にできる。

留意点 捕獲には許可が必要。万能な捕獲方法はないため、立地、動物の行動、人の活動など、諸条件を考慮して最適な方法を選択、組み合わせること、各捕獲方法の長所や特性を発揮できる体制づくりが重要。